

江差の観光

2019.11.6 対鷗館

No	項 目	意 見 内 容	意 見 に 対 す る 回 答
1	将来に向けての課題	観光について、 どういう方向で集客をしたいのか。 どういう施策を施して函館などに来ている観光客を誘客するのか。 具体的に見えない。 日本遺産の指定を受け、美しい村連合にも加盟、歴まち、開陽丸、中村家と観光についての条件は、かなり整備されているが観光客に結びついていない。 具体的なものについて、町の住民、観光に関わる人たちと議論していく必要があると考える。	江差町として、持っている観光に対するストーリーは、地方らしさ、田舎らしさが残っていて、都会の人たちにそれらを体験、体感する。例えば、町の歴史、文化、祭り、追分、食、自然風景を体験、体感するというものではないかと考えている。これらを求めてくる客に来てもらえるような地域を目指すべきだと考えている。 都市型の新しい魅力をつくるのではなく、昔からある魅力を生かしながら、どのように地域経済につなげていくのかなど考えていくべきと考えている。
2	将来に向けての課題	江差町の観光に対するストーリー性が見えない。 (1)一過性の話題作りではなく、実際に消費者が求めているもの。 (2)この商品は、どういう客層を狙って作ったのか。 (3)ひとつの商品についても、こういう理由だから、こうして売りたい。 (4)江差町は、こういう町で、こんなことをしているので、こういう人に来てもらいたい。 これらのストーリーを町民、事業者と議論し整理してからの観光情報発信だと考える。	客層のターゲットについては、江差町の魅力を考えて、絞るのは難しい所があるが、江差の良さ、歴史、風土などを感じてもらえるような客層に来てもらいたいと考えている。その上で、宿泊施設の不足という問題意識を持っている。 宿泊客層の実態調査については、難しい状況となっている。 データとしては無いが、来町者から、なかなか宿が取れないなどの声も多く聞くことがあることから、江差町は、宿泊来町者の多い時期と少ない時期の差が激しいのではないかという認識を持っている。それを、宿泊事業者の方たちと協力して、データ化し分析をできるように努力していきたいと考えているので、宿泊事業者の方たちには協力を頂きたい。 アクセスの問題について、函館を基準に考えると、車で1時間半、バスで2時間弱、函館空港からバスでは、乗り換えも必要となる。その問題をどう解決していくのか、同時に江差の魅力をどう情報発信していくのか検討が必要である。
3	将来に向けての課題	宿泊施設が不足しているというが、実態調査はしたのか。 観光客、工事関係者、その他など宿泊客の層の調査が必要だと考える。 実態調査をし、どういう宿が不足しているのか把握する必要があるのではないかと考える。	町として、観光客を増やす取り組みをどのようにしていくか検討が必要と思っている。ただし、観光客を増やすのが目的ではなく、皆さんの地域経済につなげることが目的だと考えている。

No	項 目	意 見 内 容	意 見 に 対 す る 回 答
4	将来に向けての課題	江差らしさ、江差の歴史を感じると話していたが、具体的な動きが見えない。 例えば、歴まち街道の中に古民家風の宿を作り、街道を散策してもらうこと考えたとする、そうするためには、まずは古民家風の宿を作ろうなどの動きをしなければならないと思う。 町の動きを見ると、具体的にこのようなことをしたいから、このようにしたというのが見えない。 食についても、世の中の関心のある物を考えて、それを先取りしていかなくては、観光客を増やすのは難しいと考える。 江差の魅力を感じてもらうことと同時に、世の中の関心ごとを取り入れていかなくては、観光客に来てもらえないと考える。 このようなことを考えていくには、個人ではできないので、行政、事業所、農家、漁師、などいろいろな人との連携を密にすることが必要と考える。	目標を具体的に掲げ、それを実現するために行政だけでなく、地域の皆さんと一緒に掲げた目標に向かって努力していきたいと考える。
5	町の取り組み	町民に江差町は観光地という意識があるのか。 まずは、観光関係事業者それぞれが、江差町の観光に絡めた商売をどう意識して観光地づくりにつなげるか考えていかなくてはならないと考える。	
6	将来に向けての課題	行政との懇話会の他に観光事業者、小売業者、飲食業者、宿泊事業者など様々な業種を集めた懇話会が必要だと考える。 業種を越えた業種間の連携が必要だと考える。 業者同士が話し合える場を行政で作ってもらいたい。	様々な業種を集め懇談する場を作るというのも、行政の役割だと考えるので、どのようにそのような場をつくっていけるのか、検討していきたい。
7	将来に向けての課題	行政でも、観光協会でもなく、実際に営んでいる小売業者、飲食業者、観光事業者、宿泊事業者、農業者、漁業者など様々な方が連携していくことが必要だと思う。	
8	町の取り組み	観光客の宿泊施設の不足について、観光客数などの実態がわからない状況であるまま、宿泊施設が不足しているというのはどうかと思う。 実際の数字でないものを利用して計画を立てるのはおかしいと考える。 実際の数字を踏まえたうえで、計画を策定してもらいたい。	宿泊数の実態の詳細を把握すべきだということで、ぜひ、旅館組合や各宿泊施設の方々に協力していただき、詳細な情報の提供を頂き、江差町の実態について詳細なデータを構築していきたいと考える。 旅館組合や宿泊施設から頂き、構築されたデータを基に次期総合戦略に活かしていきたい。

No	項 目	意 見 内 容	意 見 に 対 す る 回 答
9	将来に向けての課題	観光コンベンション協会としても、観光客の入れ込み数について、裏付けが欲しいので、各宿泊施設で、宿泊の目的を簡単なアンケートなどとはできないのだろうか。	
10	町の取り組み	旅館組合としては、今年の5月から観光・ビジネス・その他の3つのジャンルで聞き取りを行って集計しているが、新規事業者による宿泊施設建設補助の問題以降行政には情報提供していない。	
11	将来に向けての課題	宿泊者に宿泊目的を聞き取りしているのであれば、ぜひ、行政等に情報提供をして、観光関係団体が一緒に実態を把握し、年齢層、グループの種類など詳細を掴んだうえで、情報共有を行い観光振興につなげていくのが良いのではないかと。 また、その情報提供の協力をいただけることにより、観光コンベンション協会でも観光PRなどをしやすくなり、行政でも計画を策定していくうえで活かすことができると考える。	
12	町の取り組み	宿泊数については、役場から、上半期下半期で調査依頼が来ているので、旅館組合としてはではないが各旅館個々の事業所としては、この何年間調査表を提出している。	
13	町の取り組み	提出依頼があり、提出しているのであれば、旅館組合としても、ぜひ協力をしていただきたい。	
14	町の取り組み	それであれば、話がかみ合わないのではないかと。 町長の前段の説明では、宿泊数のデータが無いので判断できないと言っていたのではないかと。	宿泊者の毎月の総人数は、提出いただいている。 しかし、今回話になっている観光客なのか、ビジネスなのか、その他なのかという客層の種類については、把握していない。道に提出しているものは、客層の種類はすべてを含んだ状況で報告している。 ただし、今後について協力を得られるのであれば、客層別に分けた人数で報告を頂きたいと考えている。
15		(旅館組合では、5月から客層の種類について聞き取りしていると話していたが、だいたいどのような状況かという質問に対し) 観光客は、宿泊者の約2割から3割くらいだと思う。 今現在で、約2割から3割なので、これから観光オフシーズンに入るとほぼ0になり問合せ自体もない状況なる。年間全体で見るとさらに割合は減るのではないかと。	

No	項 目	意 見 内 容	意 見 に 対 す る 回 答
16		（追分大会開催期間中に関係なく、追分関係者が来町したときに宿泊施設に空きがなく泊まらないという声を聴くが実際の状況はどうかという質問に対し） 2～3年前から、江差町では、風力関係で業者が宿泊している状況にあり、現状平日については、業者が宿泊していることにより旅館としても助けられている。 ゴールデンウィーク・お祭り・追分大会に重なった場合は、泊まらないということもある。 ただし、追分大会については、江差町の宿泊施設は、各追分支部から来た宿泊客を最優先にして宿泊できるようにしている。それで余った客室がある場合は、ビジネス客の宿泊を受け入れている。 宿泊客があふれてしまうというのは、年間で10日程度だと思われる。	
17	将来に向けての課題	江差町に来る観光客などの流動人口を観光コンベンション協会としても増やし、少しでも経済に結び付けていきたいと考えている。 そのことから、観光の要となる、旅館組合や宿泊施設の方が協力するという姿勢でなければ、観光振興にはつながらない。 観光コンベンション協会としても宿泊施設関係者の協力がなければ、観光事業所等にPRするとき自信を持ってPRが可能な状況にある。 ぜひ、旅館組合を含めその他の方たちも江差町は観光地ということを考えながら、努力している姿勢を見たいと思う。	
18	町の取り組み	このような懇話会があるのであれば、各団体で、事前に議論し要望等をまとめることや、各同事業所が集まってこのようなことをしたいと意見をまとめて、懇話会に臨む方が良いのではないかと考える。そのようにしないと、話はまとまらず、言いばなしの懇話会になってしまうのではないかと。	宿泊施設の問題について、観光コンベンション協会の役員に集まってもらい懇談した時、やはり江差町には、宿泊施設が足りていないという意見をもらっている。 しかし、今回は、もっとそれ以上の江差町全体の観光についての意見を広く頂ければと考えこのような形の懇話会を開催している。
19	将来に向けての課題	現在の江差町の団体を考えると、例えば、観光協会に旅館組合が入っておらず本当の宿泊事業者の声が伝わっているかなど、職種は関係なく実際に営んでいる関係個別事業者の声が伝わっていない状況ではないか。そのような状況では、前に進まないと考える。 各団体、各事業所などのかみ合わせがうまくいっていない状況を解決し、話し合うと必ず前に進む。	各団体、各事業所がうまくかみ合うように進めていきたい。

No	項 目	意 見 内 容	意 見 に 対 す る 回 答
20	町の取り組み	宿泊施設で、夕食を提供していない施設もある。 土日祝日に観光目的の客が特に多いのだが、日曜日だと営業している飲食店がない。 このことから、何軒かでいいので町に飲食店の土日祝日営業を要望したが現状も営業している店がない。	発想の転換で、日曜日や飲食店が営業していない時だけ宿泊施設で夕食を出すことはできないのか。
21		宿泊施設で、夕食の提供を考えたことはあったが、金額的に宿泊費込で高額になってしまう。また、高額な夕食込の宿泊費に見合う食材の提供が難しく、客に高いというイメージしか残らないと考え断念した。 江差町に来てもらっているからには江差らしいものを食べてほしい。	
22		飲食店の方と提携することはできないのか。 この問題は、行政というよりも、宿泊施設と飲食店が連携することにより解決できるのではないのか。	
23		行政で、江差らしいものが安く手に入る方法の情報提供をしてもらいたい。	それに関しては、各事業者など民間の方たちも努力して、現在があると思われるので、流通にまで行政が参入することはできない。 ただし、皆さんがやりたいことについて、どのような支援ができるか、どのような手立てがあるのか考えていかななくてはならない。
24		仕入先とかは、各事業所で探さなくてはならないものなのか。	具体的にこういう物、こういう食材を使いたいなどがあれば行政としてできる範囲の支援、相談を受けることはできる。
25	町の取り組み	横山家の再開はいつなのか。 この問題は、観光にとって大切な問題だと考える。 後回しになっているのではないか。	現在、横山家の家族の方と話し合いを継続している最中だが、今のところ、開館に至っていないというのが現状。
26	将来に向けての課題	観光協会に宿泊事業関係者が少ないのは事実なので、加盟していただきたいと考えている。	
27	将来に向けての課題	日本遺産認定の際に、江差町歴史文化基本構想という物を作成しているが、それに江差の観光路線や江差の目玉はこれだと明記されていると思うが、なぜその通りに着実に進めることができず、最初からのような議論を何度もするのかと思う。すごいメンバーをそろえて協議し作成したものがあるのだからそれを生かして進めてはどうか。	江差町歴史文化基本構想を皆さんと重要性を再認識しながら進めていきたい。